

ChatGPT Work & GPT-5.6が変える知財実務の未来



2026年7月、OpenAIが発表した「GPT-5.6」と「ChatGPT Work」は、従来の対話型AIから、自律的にタスクを完結させる「エージェント型AI」への進化を象徴しています。特許調査や明細書作成、知財戦略といった専門業務の自動化と高度化を加速させます。

ChatGPT Workによる知財業務の変革

「対話」から「自律実行」へのパラダイムシフト



指示を出すだけで、数時間にわたり自律的に成果物を完成させる。



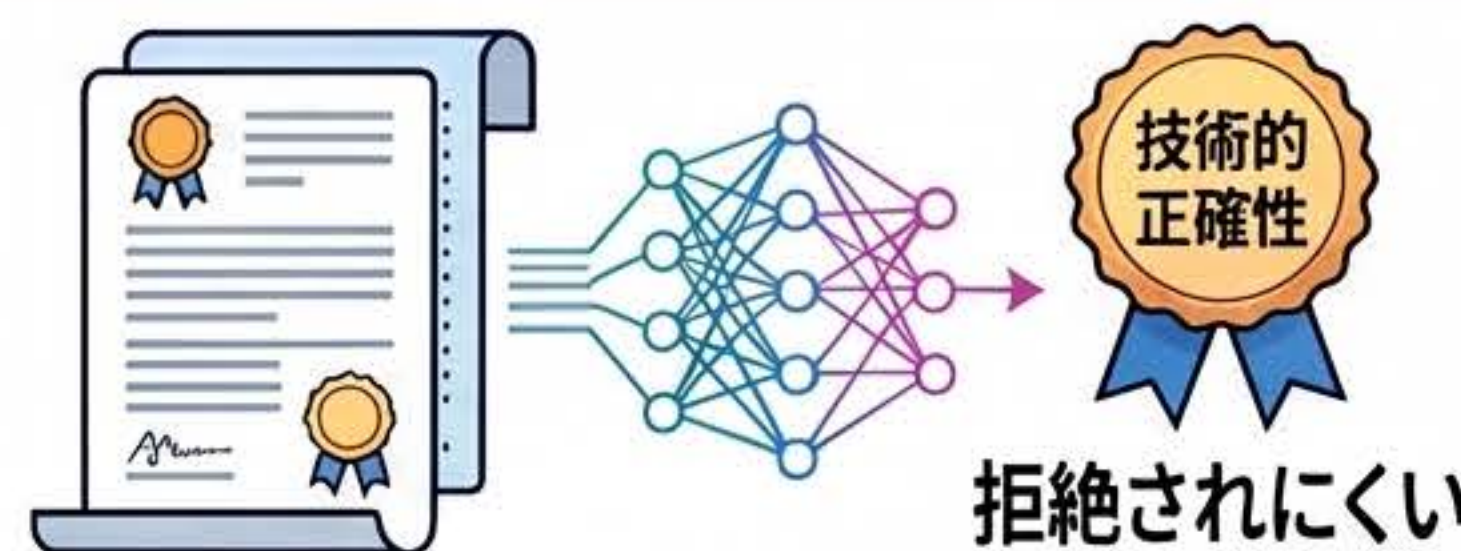
先行技術調査とモニタリングの自動化

セマンティック検索で概念的類似性を見出し、FTOリスクを自動報告。



明細書ドラフトとOA対応の効率化

推論能力の向上により、技術的に正確で拒絶されにくいドラフトを生成。



主要AIエージェントの競合比較

汎用AIエージェント



知財特化型AI



一般業務は汎用型、コア実務は特化型を使い分ける「ハイブリッド運用」が鍵。

オムロンの事例：知財関連工数を50%削減

社内ナレッジと連携した自社専用AIエージェント構築による創的成果。



主要AIエージェントの強みと知財業務への適合性

	ChatGPT Work	Claude Cowork	Copilot Cowork
主な特徴・強み	 自律的タスク実行、成果物（スライド・Web）生成	 長いコンテキストウィンドウ、高い安全性	 Microsoft 365エコシステムとの完全統合
知財業務への適合性	 複雑な明細書作成や広範な先行技術調査に強い	 大量文献の読み込み・条約、法務的分析に定評	 Word上でのドラフト作成や社内共有データ活用に鋭通